

第5学年 学級活動（2） 学習指導案

福岡市立三宅小学校
栄養教諭 橋本智美

1. 題材名 「給食で真鯛を食べるのはなぜか考えよう」

2. 目標

- 地元産の水産物やその加工品を選んで食べることは、地元の水産業や加工業を支えることになるということが分かる。 (知識・技能)
- ともトークで自分の考えを伝え合うことを通して、考えをまとめることができる。(思考・判断・表現)
- 給食で真鯛を食べる意味を意欲的に考えることができる。
給食に登場する「真鯛の煮付け」を、進んで食べようとするすることができる。
(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本題材は、給食に登場する真鯛は、国の補助金により賄われることを知ることを通して、自分たちが地元産の水産物やその加工品を食べる（消費する）ことが、地元の水産業や加工業を支えることにつながることを理解するきっかけとなると考える。

社会科の水産業での学びを、給食で食べる体験とつなげることで、豊かな水産資源を護り次の世代まで受け継げるようにするために、今自分にできることは何かを考える機会を持つことは、とても意味深い活動であると考え、本題材を設定した。

(2) 児童観

本学級の児童は、毎日の給食をととても楽しみにしており、給食への関心も高い。しかし、学級全体の喫食状況は、食の細い児童や偏食傾向のある児童が複数名おり、給食を残さず食べられる日と、食べ残す日がある。特に、水産物やその加工品を主としたおかずについては、好き嫌いによる残食が多くなる傾向がある。

水産物やその加工品は、健康な身体づくりに必要なものであり、また、食を豊かにするためにも欠かせないものである。そこで、この題材に取り組むことは、児童の食生活をよりよく改善するためにもとても有意義であると考え。

また、社会科で水産業について学び、課題とその解説策を整理しまとめたこの時期に、本題材を取り上げることで、給食で食べる体験を通して学びを実生活に結びつけることができると考える。

(3) 指導観

本題材の指導にあたっては、まず「お魚新聞」により社会科の水産業での学びを振り返り、豊かな水産資源に恵まれていることは当たり前ではないことに気づかせる。次に、給食に真鯛が登場する理由を考えさせる。その過程で、学校給食の物資の手配を担っている「福岡市学校給食公社 物資戦略課」の3名をゲストティーチャーとして招き、子ども達の質問に答えてもらう中で、真鯛が国の補助金により賄われていることを知らせる。このことを通して、自分たちが地元産の水産物やその加工品を食べる（消費する）ことが、地元の水産業や加工業を支えることになることに気づかせる。その上で、地元の豊かな水産資源を護り次の世代まで受け継げるようにするために、今自分にできることを考えさせたい。

(4) ESDとの関連

・本学習で働かせるESDの視点(見方・考え方)

有限性…豊かな水産資源に恵まれていることは、当たり前ではないこと。今のままでは、近い将来食卓に魚がなくなる可能性があること。

相互性…地元福岡の水産物やその加工品を、積極的に給食の献立に取り入れることで「消費の機会」を生み出すことは、漁業や水産に関わる仕事に従事する人々の生活を支えることになるということ。地元の子ども達に福岡の水産物を食べてもらえることは関係者の喜びであり、働く原動力の一つにもなっていること。

・本学習で育てたいESDの資質・能力

・長期的思考力

豊かな水産資源を守り、次世代に受け継ぐために、30年、50年、100年先のことを考えて今、行動することが大切である。

・コミュニケーションを行う力

他の児童の話を考えながら聞いたり、自分の考えを伝えたりしながら、自分の考えをまとめることができる。

・進んで参加する態度

意欲的に関わりを持とうとしたり、考えをつくろうとしたりして、積極的に参加しようとする。

・本学習で変容を促すESDの価値観

・世代内の公正

50年後も豊かな水産資源を保つためには、今自分たちが何を選んで食べるかが大切である。

・幸福感に敏感になる、幸福感を大切に

地元産の水産物や水産加工品を食べられることは、幸せなことだということを実感する。

・達成が期待されるSDGs

14 海の豊かさを守ろう

4 質の高い教育をみんなに

4. 評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 社会科での学習を振り返り、豊かな水産物があることは、当たり前ではないことに気づく。 ② 地元の水産物を護るには、「消費」されることが必要であり、地元産の水産物やその加工品を選んで食べることは、地元の水産業や加工業を支えることにつながる事が分かる。	① 自分の考えをつくることができる。 ② ともトークで自分の考えを伝え合うことを通して、考えをまとめることができる。	① 給食に真鯛が出る意味を意欲的に考えようとしている。 ② 給食に登場する真鯛の煮付けを進んで食べようとする。

5. 事前・事後指導

	主な学習活動（給食時間）	学習への支援（給食時間）	評価・備考
事前	① 給食で「福岡産ぶりフライ」を味わい、小呂島の天然ぶりについて知り、写真でぶりの大きさを実感し、社会科での学習と実際の食を結びつける。	○社会科での学習内容を実際の食生活になげられるよう、「福岡のぶりフライ」が給食に登場するときに、5年生が社会科でぶりの養殖について学んだこと、地元（市内小呂島）では天然ぶりが獲れることを全校放送する。 ○「ぶりとカツオの実物大の写真」を持って、5年生の学級を巡回し、「ぶりはどちら？クイズ」をする。	○社会科で学んだ「ぶり」を見分けられるか。 ○地元では天然のぶりが水揚げされていることを理解できたか。
事後	① 給食で「真鯛の煮付け」を味わう。 ② 動画を視聴し、学習を振り返る。 ③ 今日の真鯛が全校分でいくらかのかわかる。	○全校放送で、今日の真鯛は、地元産であること、国の予算で代金を支払ってもらって食べられることを伝える。 ○授業資料を活用して動画を作成し、給食時間に視聴するよう担任に依頼。（全校配信） ○「真鯛の実物大の写真」と「今日の真鯛の全校分の金額カード」を持って、5年生の学級を巡回し、給食で真鯛の煮付けを味わった感想を聞きとる。	○意欲的に真鯛の煮付けを食べているか。 ○動画を視聴により、本時の学習を振り返り、学んだことを確かめられたか。

6. 本時の展開

展 開	主な学習活動	学習への支援	評価・備考
導 入	<p>1 社会科での学習を振り返る。 ・豊かな水産物があることは、当たり前ではないな。 ・水産資源を護るために、何かしなくてはいけないな。</p> <p>2 真鯛が給食に出ることを知る。</p>	<p>○「お魚新聞」を見せ、社会科での学習を振り返らせる</p> <p>○来週火曜日に真鯛が給食に出ることを知らせる。</p> <p>○ゲストティーチャー紹介[給食公社3名] ○真鯛は地元で獲れる豊かな水産資源であることを知らせる。[給食公社提供 VTR] (福岡市西区西浦漁協取材)</p>	ア① (知・技)
展 開	<p>3 本時の学習のめあてをつかむ。</p> <div data-bbox="368 992 1107 1068" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>めあて 給食で真鯛を食べるのはなぜか考えよう</p> </div> <p>4 真鯛についての質問を考える。 (個人)</p> <p>5 ともトークで、他の児童の考えを聞き、班で1つの質問を考え、発表する。(グループワーク)</p>	<p>○学習プリントに質問を書かせる。</p> <p>○班の用紙に質問を書かせ、発表させる。</p> <p>● [給食スキー博士(給食公社課長)] が、各班の質問に答える。その中で真鯛は高級魚のため、コロナ禍で需要が減り、廃棄される危機に直面していたこと、その危機を回避するために国の予算を使って真鯛を漁業者から購入し、給食で提供されるまでの流れを説明する。</p> <p>○給食では、地元の水産物を積極的に使用していることを知らせる。</p> <p>○漁師は、海の環境を守る活動もしていることを知らせる。</p>	<p>イ① (思判表) ウ① (主体的)</p> <p>イ② (思判表)</p>
ま と め	6 本時の学習で学べたこと、感じたことを学習プリントに書く。	○学習プリントに学べたこと、感じたことを書かせる。	ウ② (主体的)

7. 成果と課題

【成果】

- ① 本時の授業を通して、給食で「真鯛の煮付け」を食べる意欲を高めることができた。
《児童の感想（学習プリントより）》
*魚は嫌いだけれど、少しでも食べられるようになりたいと思った。
*鯛をたくさん食べることが、海の環境を守ることもつながることがわかったので、鯛をこれからたくさん食べようと思います。鯛の給食がとても楽しみです。
*鯛はもともと好きだけど、給食で食べたことがないので、来週が楽しみです。お刺身が一番好きだけど、正月に煮ものも食べようと思いました。鯛を食べられること、魚を食べられることに、もっともっと感謝をしないといけないと思いました。
- ② 学習後に「給食で真鯛を食べる」ことで、実際の食につなげて実体験することができた。
《児童の声（給食時の学級巡回にて）》
*たとえようもないくらいおいしかった。
*また食べたい。もっとたくさん食べたかった。
- ③ 給食時間に事後指導を行うことで、授業の中で答えられなかった児童の質問に答えることができた。
(全校分の真鯛の代金はいくらなのか知りたい。)

【課題】

- ① 本時は11月24日に実施した。社会科で水産業について学んだ直後の9月末の時期に実施できれば、より学習とつなげることができた。水産業の学習の後に地産地消について学ぶ時期に実施できるとよい。
- ② 年間カリキュラムに予定されていない授業であったため、日程調整が難しかった。地元の魚は真鯛以外にも給食に常時取り入れているので、次年度のカリキュラム検討の際に提案し、計画的に実施できるようにするとよい。
- ③ ゲストティーチャーと授業のねらいを共有することの難しさが課題である。どのような関わり方で参画してもらえばよいかを研究したい。
- ④ 栄養教諭として授業を提案する場合、その多くは「1時間で何ができるか」を考えることになる。そのため、学年主任や担任と密に連携できる関係を築いておくとともに、関連教科の年間カリキュラムに精通し、学習内容をよく理解していることが求められる。
- ⑤ 年間約190回ある「給食時間」を活用し、教科学習と関連づけ、ESDの視点を取り入れた食に関する指導となるよう研究したい。そのためにも、食に関する指導の年間カリキュラムにESDを位置づけて継続的に指導できる仕組みを構築することが必要だと感じている。

小学5年

現在の学年終了時に目指す姿

自分たちの住む地域に誇りと愛着をもち、一人一人が将来の環境づくりの主体であることに気付くとともに、地域の人たちと協働してよりよい社会に向けてのアクションを自ら起こすことができる。

SDGs14

海の豊かさを
守ろう

SDGs4

質の高い教育
をみんなに

豊かな水産資源に恵まれていて、生活しているから幸せなことなんだから。

どうすれば今後とも豊かな水産資源を育てていきたい。

学級活動

「給食で真鯛を食べるのはなぜか考えよう」

自分たちの住む地域は、豊かな水産資源に恵まれていて、その豊かな水産資源を守るために多くの人が協力し取組んでいることを知ること、地元への愛着や誇りをもたせたい。また、水産資源を守るために、地域で実際に活動している人々の願いと働きを知ること、自分たちにできることは何かを考えさせる。

この学習を通して、豊かな水産資源を守り受け継ぐためには、一人一人がその課題を自分事として考え、地元の水産物を積極的に消費することが課題解決につながることを実感させたい。

一人でも多くの人に、水産資源を守るために地元で取り組まれていることを伝えたい。

「地元の豊かな水産資源を守るために、今自分のできることを考えよう」

○主に養いたいESDの資質・能力
長期的思考力

豊かな水産資源を守り、次世代に受け継ぐために、30年、50年、100年先のことを考えて今、行動することが大切である。

コミュニケーションを行う力

友だちと協力しながら課題解決のために積極的に考えをまとめ、発信したりする。

○主に育てたいESDの価値観

世代間の公正

50年後も豊かな水産資源を保つためには、今から自分たちが行動を起こすことが大切である。

地元の水産物やその加工品を選んで食べることで地元の水産業や加工業を支えられるんだなあ。

水産業にはたくさん課題がある。水産資源を守るためにアクションを起こさない。

社会科「水産業」

このままでは、40年後には、魚がいなくなるなど豊かな水産資源は枯渇してしまいう持続不可能な状況にあることを理解する。

給食時間「地産地消」

(福岡産の水産物やその加工品の活用)

地元福岡の水産物やその加工品を、積極的に給食の献立に取り入れることで「消費の機会」を生み出し、漁業や水産に関わる仕事に従事する人々の生活を支えている。地元の子ども達に食べてもらえらることは関係者の喜びであり、働く原動力の一つにもなっていることを知る。また、児童一人一人が地域の住民であり、「地元の水産業を守る」主体であることにも気づかせたい。

- ①福岡のギョロロツケ（市内産ぶり使用）
- ②福岡のぶりフライ（市内産ぶり使用）
- ③真鯛の煮付け（福岡県内産真鯛使用）